

# 新元号の発表

## 新しい時代の幕開け

5月1日（水）から、いよいよ新元号「令和」の時代が始まります。今回の新元号は、改元の1か月前に公式に発表されましたが、こうした事前の発表は、歴史上では初めてといえる出来事でした。

## 元号の起源

元号が日本で初めて使われたのは、西暦645年からの「大化」であるとされています。もっとも一般の庶民にとっては、長い間、元号が身近なものになることはなく、その後、元号そのものが定められていない時期や、時の勢



力者によって2種の元号が並立して使われていた時代などを経て、江戸時代に入り、幕府が元号決定や新元号施行の権限を有するようになる、ようやく庶民の間にも元号の存在や使用が広まるようになったと考えられます。ただし江戸時代以前は、天皇の交代時以外でも、特に国にとって喜ばしい事があった時、また大災害が起こった時などに改元が行われることもあって、現在のように、テレビやインターネットで瞬時に情報が伝わることはない状況下では、改元があったことを知らなかったり、わざわざ変わるかもしれない元号は使わなかったり、という人が多かったのも事実のようです。

## 市に残る元号の記録

旧今津町役場に残されていた江戸時代末期の今津村役所の公文書の中には、明治改元の年である慶応4年（1868年）3月から書き始められた記録があります。実

際には、この年の9月8日（新暦で10月23日）に、天皇から「慶応4年を改めて明治元年とする」という「改元の詔」が発せられているはずですが、この今津村役所の記録には、表紙に「慶応四戊辰年、明治元改年」と書かれる以外、特に改元に関わる記載はありません。また、中に記された文書では元号を使ったり、使わなかったり、少なくとも「慶応四年六月」の表記は見られますが、その後はしばらく「辰七月」「辰八月」と干支での表記が続き、初めて「明治」の元号が見られるのは「明治元年十二月十日」の文書になります。この記録のみでは、一般の人たちが、いつどのように改元を伝えられ、「明治」の元号を使い出したのか定かではありませんが、今回の新元号の発表とは随分ようすの違うことがうかがわれます。

閩文化財課  
☎ (25) 8559

## 大溝祭400周年記念事業開催

大溝開藩400年にあたる本年の大溝祭では、以下の記念行事の開催が予定されています。ご期待ください。

- ▼特設広場（お城バルーンの設定）の開設  
日 時 | 5月3日 土 18時30分～22時  
4日 日 9時～16時  
場 所 | 勝野二区宮駐車場（大溝陣屋総門隣）
- ▼五車別れ会場での鏡開き・餅まき  
日 時 | 5月4日 日 15時30分～16時  
場 所 | 市宮勝野観光駐車場（宝地区）
- ▼400周年記念グッズの販売



## 編集 雑感

「平成」が幕を閉じ、5月1日から新しい時代、「令和」が始まります。私も新元号発表と同時に高島市職員の一員となり、新しい生活が始まりました。4月頭には職員としての心構えや救急救命講習などの研修を受け、海津大崎のさくら並木の一方通行規制にもスタッフとして参加してきました。正直、慣れない毎日に不安や戸惑いを感じていますが、魅力たっぷりの高島市で働ける喜びを胸に、目の前のことに丁寧に向き合い、この経験を今後活かしていきたいです！（YH）



広報たかしま

令和元年

5

月号 No.232

発行▼高島市 編集▼政策部企画広報課  
〒502-1-5001 滋賀県高島市新旭町北畑5の5番地

☎ 0740(25) 8000(代)  
http://www.city.takashima.lg.jp  
t:info@city.takashima.lg.jp